



(第1話の10)

(このお話はフィクションであり登場する団体・人物などの名称はすべて架空のもので)

—前回までのあらすじ—

クライアントの多々美屋食品から譲り受けた社員旅行に突然出かけた翔文館印刷の社員たち。何も知らずに事務所に残された生産管理部の野田原…。そこへ多々美屋食品の美人受付嬢の高本真理子が来社し突然坂辺部長のデスクを物色しだした。そのとき事務所に1人の男が現れた…。

「見つかりましたか…例の物は…」

男の声に高本は一瞬驚いて振り返ったが、すぐに呆れた表情で男に言った。

「なんでここに居るの?…。車の中で待っててっていったでしょ…」

「出てくるのが遅いので心配で…」男は小声で呟いた。

「遅いってまだ5分くらいしかたっていないでしょ…もう…」

男は見た感じ35～40歳くらい。作業着っぽい服装にブルゾン姿。多々美屋食品の社員?、いや野田原には見覚えがなかった。

野田原は高本と男のやりとりを訳のわからないまま聞いていたが

さすがに困り果てて割り込んだ。「あの、どちら様ですか…」

野田原の声に高本は少し驚いて我に返った。

「ああ、ごめんね、うちの社員なの…。ま、また今度ゆっくり紹介するわ…」

何故今紹介しないのか。高本はかなり焦っている様子だった。

「…で、坂辺になにか渡すものがあったんじゃないか…?」

野田原は再び問いかけた。しばらくの沈黙のあと

「……実は…」ちょっと諦めたように高本が重い口調で語り始めた。

「渡すものは無いんだけど…このあいだ坂辺部長がうちにいらっかった時にお渡したデータの中にちょっと見られては

ますいものが紛れ込んでしまって…」

「見られてはますいもの…って何ですか」見られてはますいものなので恐らく知られてもますいものだろう…。当たり前だが野田原は好奇心剥き出しで聞いてしまった。

「そ、それはちょっと言えない…。言えるようなものだったら坂辺さんにとくにいつてわよ…」

いつもクールな高本さんが困っている様子もまたいいもんだ…ふっ…。野田原の中でS君が目覚めようとしていたが、どちらかという元がM君なのでそれ以上は問い質さなかった。今度は高本が男に問い質した。

「ほんとに渡してしまったの?坂辺さんに…」「は、はい、多々美屋通信のデータが入っているUSBと間違えて、例のものが入っている方をたしかに渡してしまったんです…。ほんとすみません…坂辺さん、もう中身を見られましたかねえ…ああどうしよう…」

「なんなら坂辺に連絡をとりましょうか…旅行でも多分携帯は持っているはずですよ、忙しい人っすから」野田原は軽い口調で言った。

高本は少し考えてから野田原に言った。

「私たちがそのUSBを探していることは内緒にしておいてくれる?…、あくまで多々美屋通信の原稿を差し替えたいということにしておいてほしい。このことは野田原君も知らなかったことにして…とりあえずUSBがどこにあるかを聞いてほしいの…」

面倒なことになったと感じながらも野田原は（見られてはますいもの）が気になっていた。

「わかりました、とりあえず坂辺に連絡してみます」

野田原が連絡をとろうと携帯を手にとった瞬間、逆に着信音が鳴った。表示された名前は“坂部部長”だった。

(つづく)

初夢宝市

Amazonギフト券
冊子ご注文の
お客様に

amazon.co.jp

10%

キャッシュバック

※冊子は無線綴じ・中綴じ・平綴じになります。

編集後記

今年初の「遊文通信」です。今年も面白い紙面づくりを目指してまいりますので、応援ヨロシクお願いしますね～

(Dandy)

次回、
News Letter
Vol.14を
おたのしみに!



遊文通信

Vol.13

小ロットで高品質な写真集を低価格でご提供

ART-BOOK

アートブックとは、丈夫で（上製本糸かがり）キレイ（超高品質印刷）をコンセプトとし、小ロットの写真集・作品に最適です。

絵画、写真やイラスト等の作品集では、クリエイターがその思いを伝えるため、色の再現性がいちばん重要になります。弊社のCMS（カラーマネジメントシステム）により色の再現性が保証され、忠実にオリジナル作品を再現します。富士ゼロックス Color 1000 Press の導入により印刷から製本までの工程を短縮しコストを削減、小ロットでもハイクオリティー・低価格の作品集をご提供させていただくことが可能になりました。

ART BOOK の特長

- 30部からの小ロットに対応
- 上製本（ハードカバー、糸かがり綴じ）
- デジタル処理による繊細な色調整が可能

参考価格

24頁／100部 ￥162,000(税込)

*上記は定型フォーマット（1頁につき1画像を掲載）でレイアウトした場合の価格です。

標準仕様

サイズ：200mm * 200mm

本文：フルカラー、マットコート135kg

表紙：フルカラー、マットコート62.5kg、PP加工

見返し：タント100kg

頁数：24頁～

部数：30部～

製本：上製本ハードカバー、糸かがり綴じ

栄光の 架け橋 第13回

第13回は(株)加工技術研究会・大阪営業所にお伺いして、
編集部の小林様、蛭田様にお話を聞きました。

— 御社についてお聞かせください

私たちはフィルムを中心としたウェブ素材に、印刷、コーティング、ラミネート（貼り合わせ）などの付加価値を高める加工を施す「コンバーティング業界」向けに技術情報を発信している出版社です。コンバーティングという言葉は耳慣れないと思います。例えば、ラーメンの袋やレトルトパウチの袋は、印刷の他に日持ちを良くするために何層かのフィルムやアルミ箔で構成されており、貼り合わせなどが必要になります。そうした素材の加工を行う加工業者をコンバーターと言います。そうした技術は、液晶や有機ELなどのディスプレイやリチウムイオン二次電池、太陽電池など数多くのエレクトロニクス製品にも応用されており、海外と比較しても日本が強い産業とされています。

— 最近の刊行物としてはどういったものがありますか？

そうした付加価値を付与するための加工技術に関する技術情報誌である『月刊コンバーテック』を発行しているほか、東アジア、東南アジア向けに同じコンセプトで発行している『CONVERTECH & e-Print』の2つを主力媒体としています。最近では、日本が得意とする機能性材料を紹介する『機能性材料総覧』を発行したほか、今年の夏にはフィルム、押出樹脂では国内随一のデータブック『プラスチックフィルム・レジン材料総覧』の発行



最近の発刊物

を予定しています。

— 遊文舎の印象をお聞かせください

レイアウトなどこちらの要望について、しっかり聞いてくれた上でフレキシブルに対応していただけるのでかなり助かっています。講演資料などの仕事も数多くお願いしていますが、短納期にもかかわらず、キッチリこなしてくれるのも心強い限りです。

— 最後に何か一言お聞かせください

これからもコンバーティングに関する情報をしっかり発信していきますのでよろしくお願いします。

(聞き手：浮き袋)



だーくんの 趣味を語れろ!

Level.13

僕、『だーくん』の趣味はゲーム。
というわけで、今までに夢中になったゲームの思い出なんかをなんとはなしに書いていこうと思います。

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願
いします。

最近めっきり寒くなってきましたね。まさに冬という感
じです。

今回はこのソフト。

『ロマンシング・サガ2』



私がよく聞くのは、3か
一番面白いという声です。
確かに四魔貴族のBGMは、
戦闘場面に鼓動を早める
ようなスパイスを与えている
至高のものだと思います。



ただ、あれだけのストー
リーの自由度を体験したのは初めてだったので、それはそれは
夢中でしたね。たとえ、自由すぎるが故に終盤になって状
況を打破するすべがなくなり、泣く泣く最初からしたことも
ありました。ラスボスの手前でセーブしてしまい、戻れなくな
ったこともありました(ラスボスは強すぎます)。今思うと、高い
難易度です。

それでも不意にプレイしたくなる、そんなゲームです。



営業と業務。お客様との橋渡しをする生産管理。遊文舎の心臓部が日々動いています。

●**落とし穴に嵌まらないように**

遊文舎の生産管理部門は新設されてまだ2年に満たないが、営業とともに、生産各部門に対する指示・管理・調整等の横断的機能を有しており、資材調達・外注管理も担っている。ひらたく言えば社内営業部門であり、納期管理・品質管理において日々重要な役割を果たしている。

そのなかで私の役割は、おもに書籍の品質管理である。書籍と言っても、出版物・教科書・研究書・紀要などから自費出版の自分史・画集・句集など、硬軟さまざま多岐にわたる。それらの入稿から納品までの全工程で、編集したり校正したり検版したり…、多くのチェックポイントをつぶしていく。印刷の工程には本当にイヤになるほど多くの落とし穴がある。一つでも見逃したら、数百万円の損失になりかねないので、会社としても生産管理部門に重きをおいて徐々に拡張していつている。

●**負のスパイラルから抜け出すには**

出版不況が言われてひさしい。大手出版社は売上高確保のため、やみくもに出版点数を増やし、結果、返品が増加、出版物の短命化、市場の低迷と悪循環の負のスパイラルに陥ってしまった。

元旦の新聞広告で、出版業界1位の講談社は2011年出版点数は、雑誌・書籍・コミックあわせて4億155

万部と成果を誇っている。1社だけで1日平均110万部！このうちの何パーセントが読者の手にわたっているのだろうか。

不況の要因として、電子書籍の急速な拡がりや、いまや紙ベースか電子書籍かという二者択一ではなく、真に読者＝時代が求めるもの、社会に役立つ本を提供するという出版の原点に立ち戻るしかこの悪循環から抜け出す途はないと思う（当たり前すぎて恥ずかしい位だけど）。

●**驚き、発見、感動を伝える**

そんなこんなの日々ですが、印刷を通じて、とくに大好きな本づくりを通じて、驚きや発見、感動をひとりでも多くの人に伝えられるよう、お手伝いできることが私の大きな喜びです。

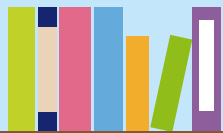
大晦日に茶屋町の丸善ジュンク堂へ寄ったら、私たち遊文舎で造本した『夫源病』が1階の話題書に積んであった。多くの人に手にとってもらえて読んでもらえるのだと嬉しく、早々にお年玉をいただいた気分で新年を迎えることができました。

本年もクレームゼロをめざしてがんばりますので、どうぞよろしく願い申し上げます。（記：遊民）



丸善1階 話題書コーナー

今月の一押し本



池井戸 潤

『オレたちバブル入行組』

文藝春秋 ¥1,750

『オレたち花のバブル組』(続編)

文藝春秋 ¥1,750

今回は経済と経営のお勉強にもなる、元バンカーの池井戸潤さん著の痛快小説を紹介しします。

バブル入社組の主人公と同期の仲間が、銀行という組織の中でリストラや出向などの危機に面しながらもしたたかに活躍する物語です。

1冊目は、大阪のある支店の融資課長が支店長命令で、新規の中小企業に融資した5億円が焦げ付き、社長は

みなさんこんにちは！新旧問わず、私キパノスケのまったくの主観に基づき、お勧め本をどんどん紹介させていただきます。ご感想などお聞かせいただければ幸いです。

雲隠れして窮地に立たされた主人公が、仲間と協力しながら支店長と社長の悪事を暴いてゆく話。2冊目は巨額損失を出した老舗のホテルの再建を押し付けられる主人公。おまけに、近々、金融庁検査が入るとい噂が。金融庁には、史上最強の“ボスキャラ”が、手ぐすねひいて待ち構えている。空前絶後の貧乏くじをひいた男たちの戦いを描く話です。

池井戸潤さんは他のどの作品も秀逸ですので是非ご一読ください！

(キパノスケ)

